

# 中医学によるアレルギー性鼻炎の分析

原田浩一

## 目次

1. はじめに
2. アレルギー性鼻炎とは
3. 生活環境からみたアレルギー性鼻炎の原因
4. 中医学によるアレルギー性鼻炎の分析
  - ① 五臓の生理とアレルギー性鼻炎
  - ② アレルギー性鼻炎の発生メカニズム
5. 症例検討
6. アレルギー性疾患における刺絡治療の効果
7. 当院の治療実績
8. 私見
9. 考察
10. 結語

## はじめに

近年、アレルギー性鼻炎は日常よくみられる疾患の一つとなっていますが、根本的改善法が開発されていないため、罹患者の数は年々増加する一方となっています。そこで当院では数年来アレルギー性鼻炎の治療に全力をあげて取り組んでまいりました。中医学の視点からアレルギー性鼻炎の発生メカニズムを分析し、針灸治療がどのような効果を及ぼすか、実際の症例を用いて報告致します。

## 最初にアレルギーについて少しみてみましょう

アレルギーとは「正常とは異なった反応」という意味です。ウイルスや細菌などの病原体が私たちの体内に忍びこむと、それに抵抗する物質ができ、再び同じ病原体が入ってきた時にその物質が病原体から身体を守るように作用します。このような生体の反応を「免疫」といい、体内にできる物質を「抗体」、病原体を「抗原」といいます。

しかし抗原に対する抗体のこのような反応（抗原抗体反応）は場合によっては身体にとって都合の悪い結果をもたらします。なぜなら抗原と反応した結果、化学伝達物質が分泌されるなど、身体に悪い影響を与えることもあるからです。身体にはこのような生体防衛

機能が生まれつき備わっているのですが、その機能が行き過ぎるためにアレルギー症状が引き起こされるのです。

花粉が鼻の粘膜に付着してアレルギー反応を引き起こすと、アレルギー性鼻炎の三大症状ともいえる“鼻の中が痒くなりくしゃみを連発する”“水のような鼻水が大量に出て止まらない”“鼻づまりが続く”といった症状が現れます。この症状はしばしば朝起きてからしばらくの間ひどくなります。

花粉症は毎年決まった季節になると発症し、その花粉の飛散の終了と共に症状も消失するので、季節性アレルギー性鼻炎といえます。通年性アレルギー性鼻炎は家の中の埃や塵をアレルゲンとする場合が多く、他にダニの死骸やペットの毛など、アレルゲンは多岐にわたります。

### 近年、症状が変化し、重症化が進んでいます

以前は鼻汁を中心とした症状が主でしたが、最近では鼻汁に対して鼻閉を主とし、鼻や目、顔の乾燥や痒み、さらに手足や全身の湿疹、痒みなどの皮膚症状を呈する症状が増加しています。また喉のいがいが感や咳、気管支喘息の症状を訴えるなど、多彩な症状を呈

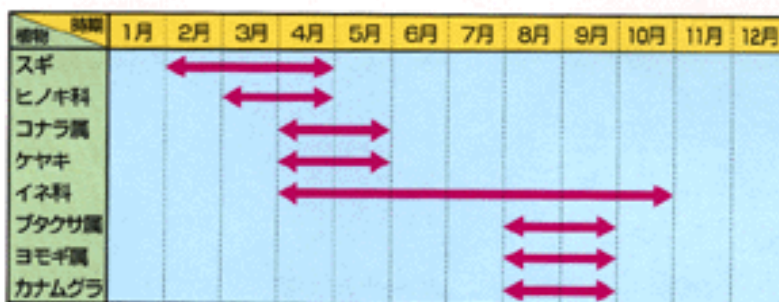
しています。スギだけでなくイネ科や秋草など複数の花粉に反応する人、季節性と通年性の両方のアレルギー性鼻炎をもつ人、さらに食物アレルギーや口腔アレルギーを持つ人など、アレルギーのフルコースと呼ばれるくらい 1 人の人が多数のアレルゲンを持つなど重症化が進んでいます。

なぜアレルギー性鼻炎に罹患する人がこのように近年になって急速に増加したのでしょうか？

なぜこのように症状が変化し、症状の複雑化が進んでいるのでしょうか？

アレルギー性鼻炎の原因は花粉やホコリなどのアレルゲンなのでしょうか？ それとも私たち自身の体質なのでしょうか？

### ◆スギの他、色々な花粉の飛散時期



## アレルギー性鼻炎の原因の考察

### 生活環境からみたアレルギー性鼻炎の原因

花粉症は 1955 年頃より急速に増加しました。

それまでと何が変わったのでしょうか？

#### ①多飲、冷飲

様々な飲み物がいつでも自動販売機などで簡単に手に入るようになり、甘いジュースやコーヒーなどを多量に飲むようになりました。

また室内の暖房施設の普及に伴い、冬でも冷たいビールやお茶を飲むようになりました。

#### ②食生活の変化

(1) 旬のものは勢いがあり身体に良いのですが、冬に夏の果物を食するなど、季節に関係なく一年中何でも食べるようになりました。

(2)食生活の欧米化によって、油物や肉類などを中心とした食生活となり、さらに嗜好品もケーキやクッキーなどの洋菓子が増える一方で、野菜や穀物などの摂取が大幅に減少しました。

### ③ストレス

機械化が進み、コンピュータの導入で社会生活はスピード化され、激しい競争社会の中で時間に追われ、常に過剰なストレスを抱えるようになりました。

### ④住環境の変化

- (1) エアコンの普及や部屋の機密性の向上により、体内の温度調節機能が低下しました。
- (2) エアコンや車の排ガス、道路の整備や鉄筋コンクリートの住宅により日中の気温が上昇し、ますます高温多湿となりました。

私たちの身体は、身体内の気、血、水が順調に流れることによって健康を保っています。しかし以上のような要因により、体内の様々な臓腑の生理機能が失調し、身体内の気、血、水の流れに影響をもたらし、特に体内水分の代謝異常を引き起こしました。すなわち、生活環境の変化が新陳代謝機能の低下を招き、自然環境にうまく適応できないような体質を作り上げたのです。このような体質の変化が、花粉症に罹患する人が年々増加している根本的な原因にあげられます。

## 中医学によるアレルギー性鼻炎の分析

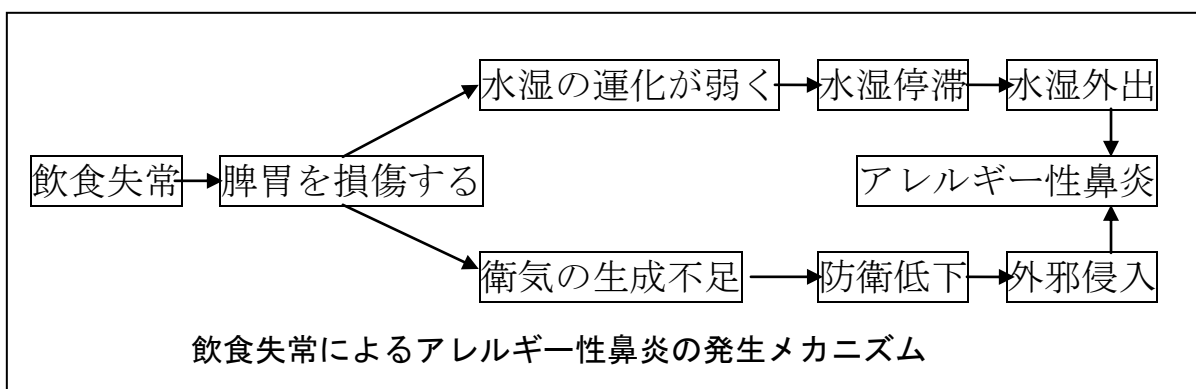
前項で述べたように、自然環境への適応能力の低下は、六淫（風・寒・湿・熱・燥・火）の影響を受けやすく、肺の宣散失調を招き、衛気が鬱滞し、防衛力が低下し、アレルギー性鼻炎を起こしやすくなるのです。

それでは五臓の生理からアレルギー性鼻炎の発生メカニズムをさらに詳しく分析しましょう。

### 五臓の生理とアレルギー性鼻炎

#### 脾

- ① 多飲や冷飲、肥甘厚味の過食、ストレスは脾気を損傷し、湿や痰を形成します。
- ② 脾の運化機能の低下は気血の生成を妨げ、衛気不足による衛気虚を引き起こします。その結果、表層のガードが低下し、外邪が侵入しやすくなります。



## 腎

### 腎陽不足によるケース

腎陽は冷飲食の過食、過剰な冷房、加齢などによって消耗します。また、ストレスや過剰な精神活動などによって心火が上部に亢逆し、下降できなくなると、腎陽不足を引き起こします。腎陽不足の結果、腎水の蒸騰気化が不十分となり、腎水が身体の下部に停滞し、全身を巡るべき津液が肺に停滞し、肺の宣散失調が起こります。そのため水湿が鼻汁として溢れ出るのです。これは近年臨床においてよく見られるケースです。

腎は津液を温め蒸化し、再び肺に送り、体内水分が全身に巡るよう推動する働きを持っているのです。

### 腎陰不足によるケース

慢性的な過労や睡眠不足などは腎陰を損傷し、陰血不足による目の痒みや皮膚の乾燥などをもたらします。

## 肝（心）

① 肝鬱により、全身を巡るべき気の流れが鬱滞し内部にこもると、表層の気の流れが滞り、肺の衛気の働きに影響を与えます。全身を



バリアのように覆い、身体を防衛する衛気の働きが低下すると、外邪は容易に身体内に侵入でき、肺の宣散失調を引き起こします。つまり、肝鬱によっても外界の変化への適応がスムーズにいかなくなるのです。

② 肝火は心火を誘ってよく上炎し、人体の上部である頭顔面部に熱、燥、風などの陽症を生み、皮膚の熱症状、乾燥、痒みなどを引き起こします。肝鬱の長期化は肺陰や腎陰の損傷につながり、以上の症状を一層強めます。過剰な肝気の昇発は（木侮金となり）、肺の宣散や肅降の機能を失調させます。そのため、津液が表層に留まり鼻汁として溢れる一方で、気の流れの滞りにより生じた鬱熱が、鼻閉や鼻の乾燥をもたらすのです。

以上によって、鼻閉、さらに鼻や目、顔の乾燥や痒みを主とするアレルギー性鼻炎が近年多くみられるようになったのです。

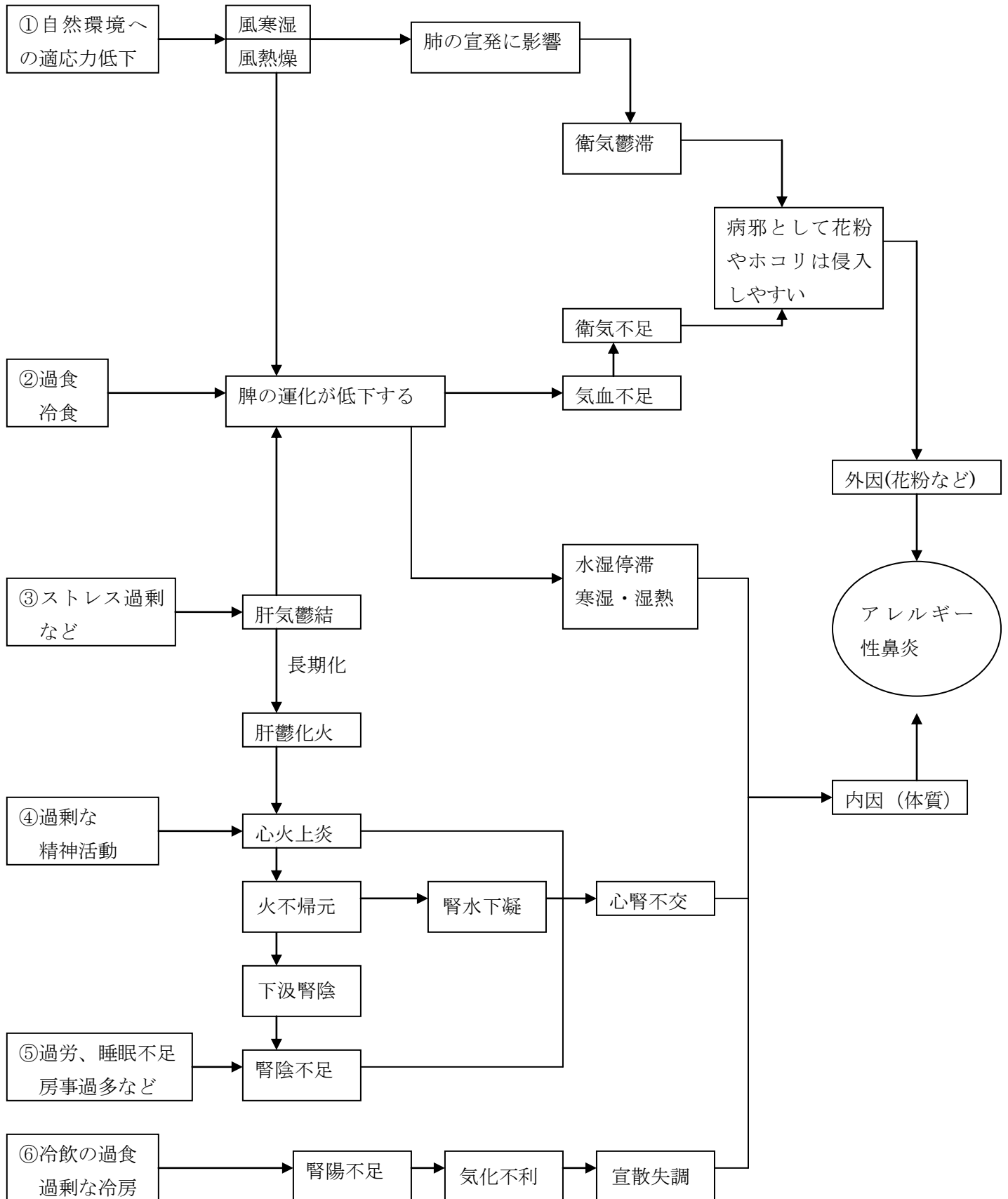
肝は常にストレスの最前線に立って戦っているのですが、現代は肝鬱の種が蔓延し、尽きないといえます。

## 肺

鼻は肺の竅であり、アレルギー性鼻炎にみられる喉や気管支、皮膚の症状は、いずれも肺の生理と関係しています。しかし、肺にみ

られるこれらの病証はあくまで標象であり、鼻汁のもとである湿の形成、衛気の不足、宣散の異常をもたらす根本的な原因は、これまで述べてきたように他の臓腑の生理が大きく関係しています。ですから、病因病機をよく分析し、個々の発生メカニズムに合わせた治療を施すことが最も大切です。

## アレルギー性鼻炎の発生メカニズムの図



## アレルギー性鼻炎に見られる代表的な3つの症例

通常よく見られる症例のタイプを3つ挙げ、鍼灸と中薬による治療方法を示します。日本では鍼灸師の立場で中薬を処方することは出来ませんが、中薬学を学ぶことは鍼灸治療と配穴を考える上でとても参考になるのです。

### 症例タイプ①

**弁証** 脾肺気虚 気虚不固 風邪外侵

### 症状

虚弱体質で風邪にかかり易く、天候が悪化すると発症しやすくなる。

鼻汁が多く、サラサラで水のように流れ出る。

くしゃみ、息切れ、軟便。

**舌診** 舌質：淡 舌苔：薄白



脈診 浮・弱

### 発生メカニズム

脾虚のため気血の生成が十分でなく、肺気及び衛気が不足して、抵抗力が低下し、風邪にかかりやすい。

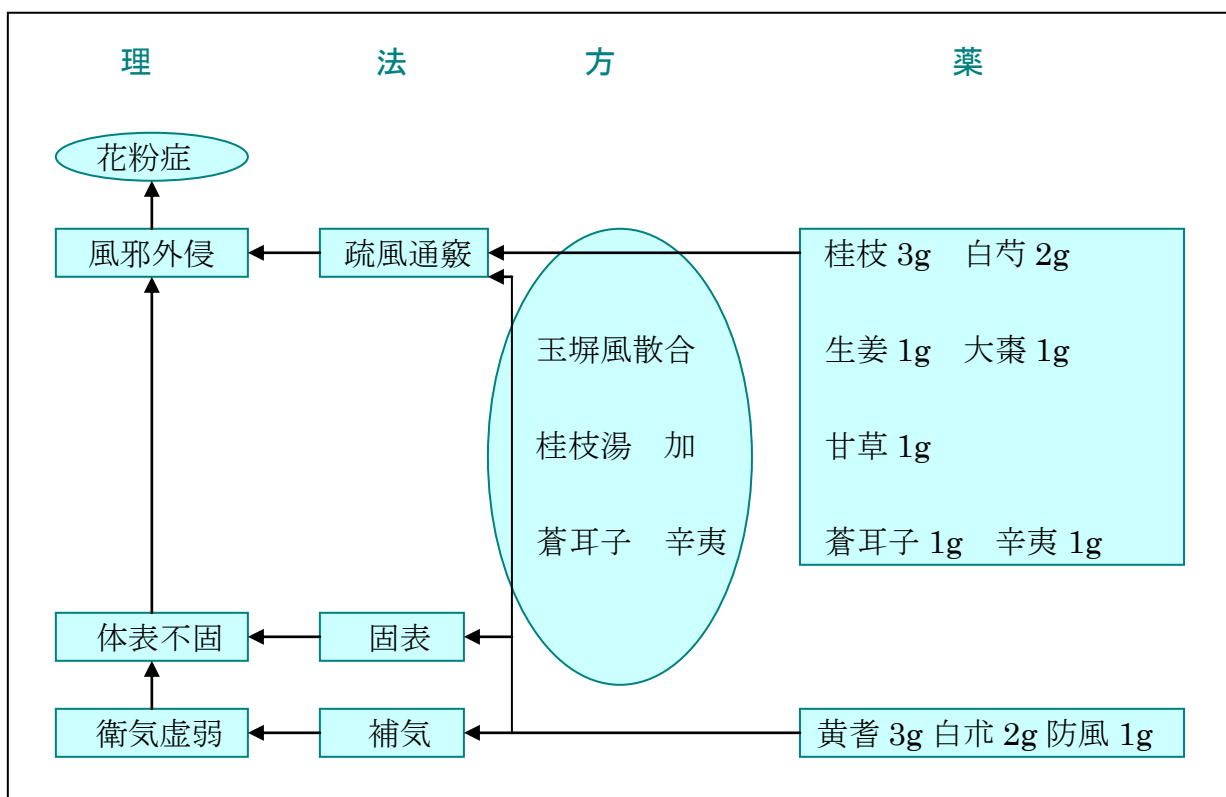
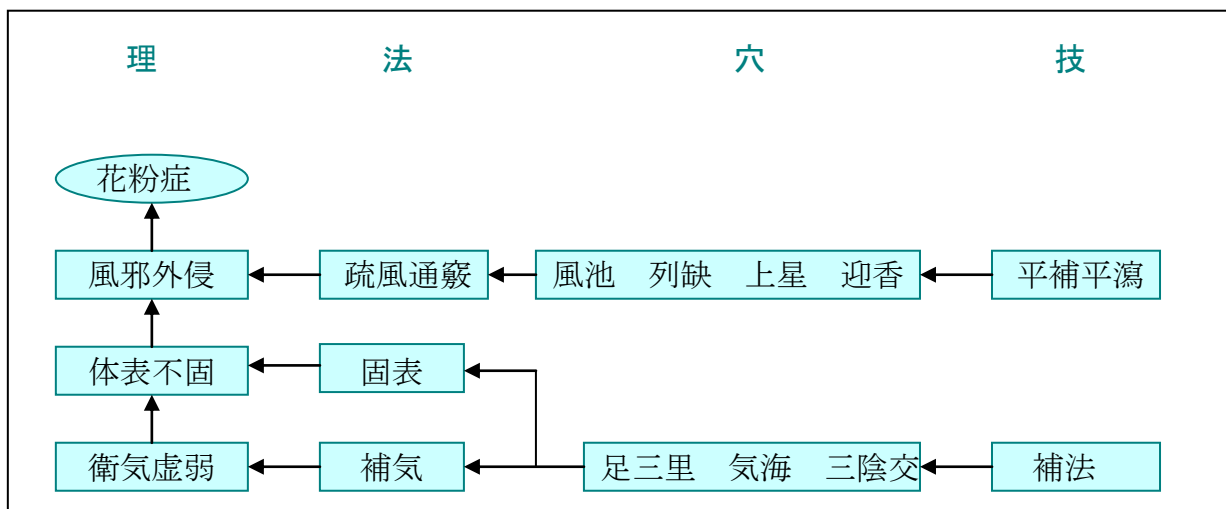
また、舌質が淡い、脈が浮いて弱いのは気血の不足を表している。

治療方法 補気固表 疏風通竅

針灸・中薬による代表配穴と処方

配穴・鍼灸 足三里・気海・迎香・風池・列缺・上星・三陰交

処方・中薬 玉屏風散 合 桂枝湯 加 蒼耳子 辛夷



## 症例タイプ②

**弁証** 肺腎虚弱 風寒外侵

**症状** 体質が弱く、寒さを嫌がる（畏寒肢冷）。

腰及び下半身が特に冷える。

時々、咳が出て鼻が詰まり、鼻汁が白くて薄く、くしゃみが出る。

**舌診** 舌質：淡白

（舌が白くわずかに苔が正常より多い）

**脈診** 沈 弱 （脈が沈んで弱い）

### 症状発生のメカニズム

寒さを嫌がり、腰や下半身が冷えるのは、体を温める元である腎の陽気が不足しているため。

そのため肺気も不足し、衛気が十分満たされず、体表面のガードが弱くなり、風邪の侵入をたやすくする。

**治療方法** 補腎益肺 温陽散寒

腎を補って身体を温め、利水し、肺気を補い、宣発を強め、水の代謝と体表面のガードである衛気を強める。

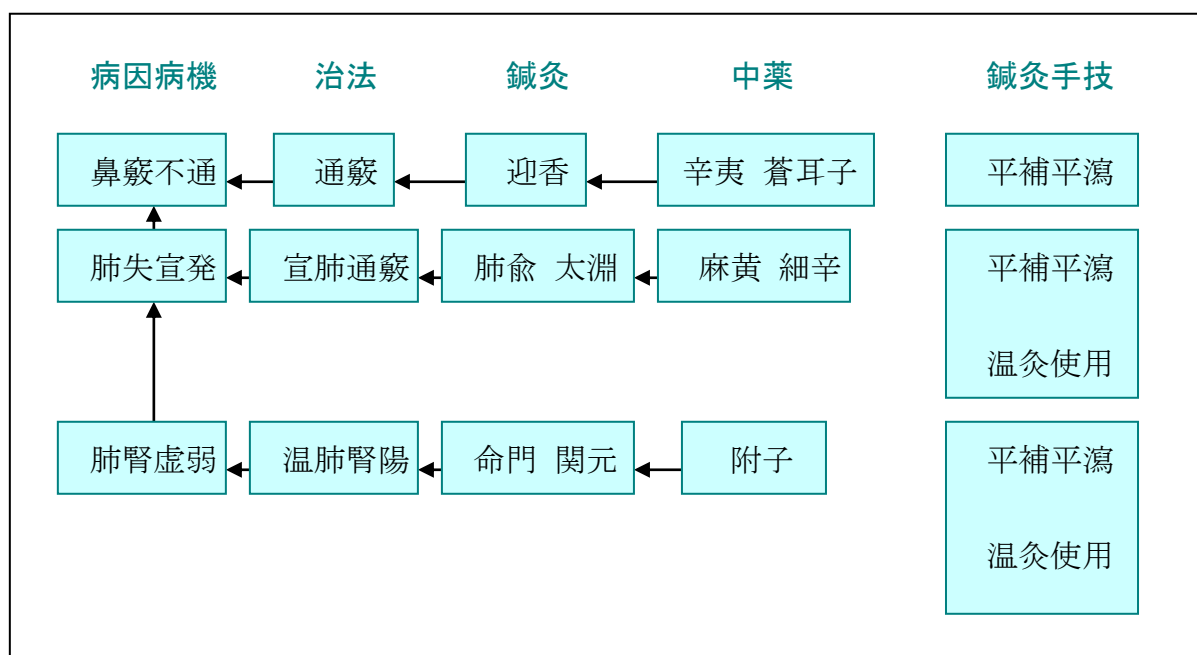
上記、鼻水が多い、寒さが強いなどの症状により加減法を用いる。

## 針灸・中薬による代表配穴と処方

配穴・鍼灸 命門 関元 腎兪 肺兪 太淵 迎香 風池

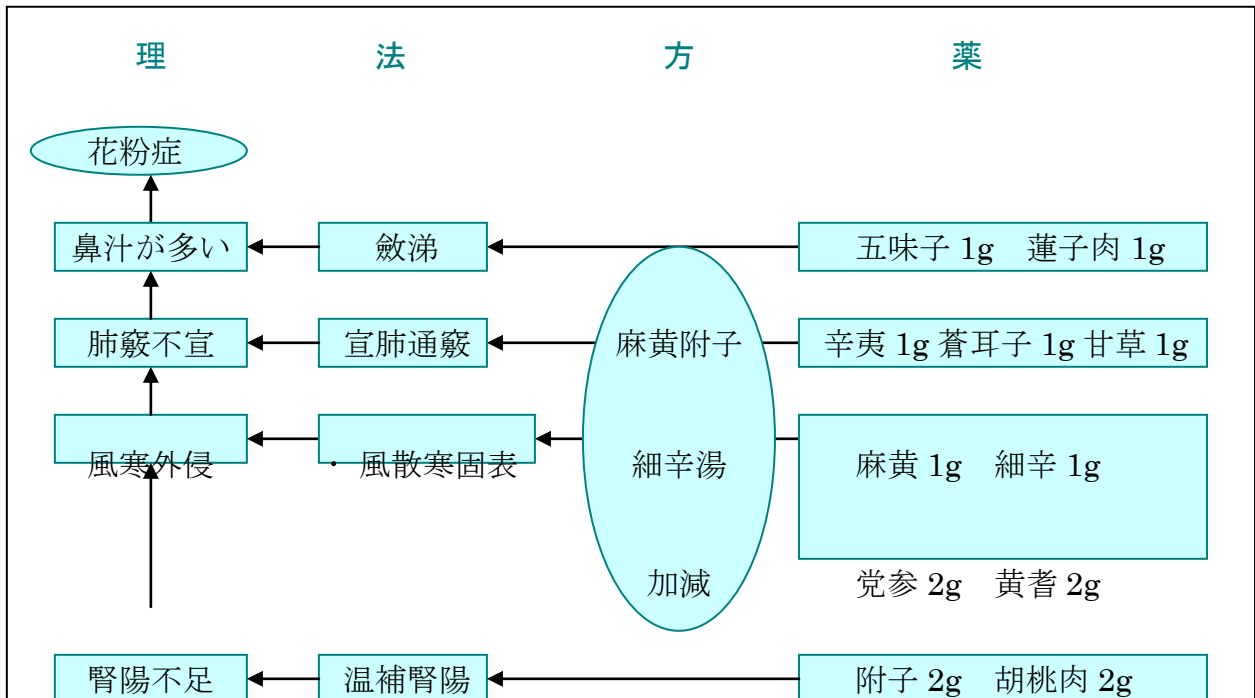
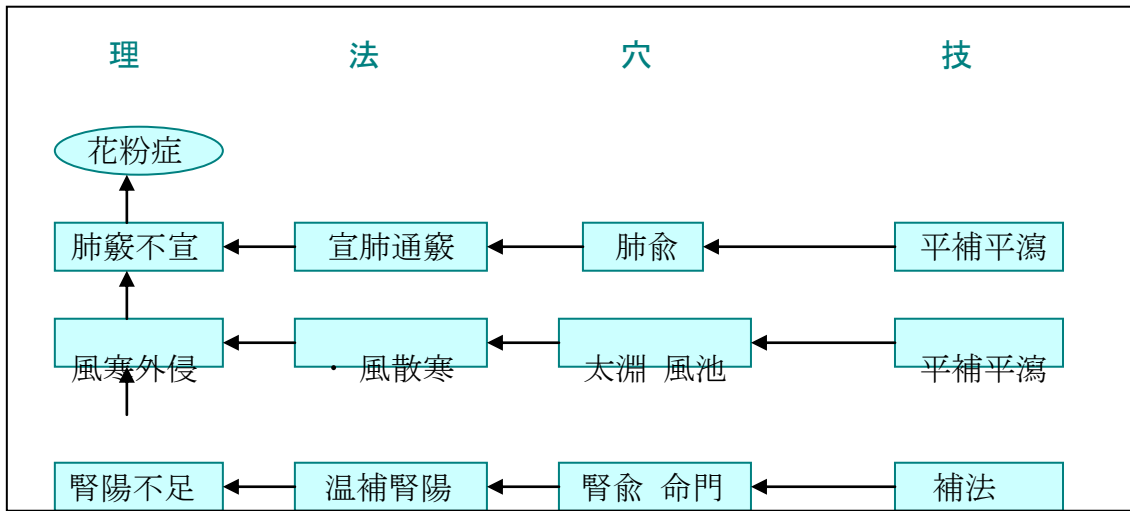
処方・中薬 麻黄附子細辛湯

加 蒼耳子 辛夷 五味子 蓮子肉 党参 黄耆 胡桃肉





配穴 処方 鍼灸中薬加減法



### 症例タイプ③

**弁証** 寒飲内停 肺脾失調

### 症状

気温の変動、気候の変化により鼻詰まりが生じ、くしゃみを伴い、鼻水が水のように流れる。

食欲不振、痰を伴う咳がある。痰の色は白く、薄い。

**舌診** 舌質 淡、胖大（舌の色が淡く、ふくれて大きい）

苔 白で、やや膩苔（白くやや粘った苔がついている）



**脈診** 滑 （川の石ころの上を流れている水のように回転して、滑るように指を押す感覚がある）

### 発生のメカニズム

冷たい水が肺にたまって、いっぱいになっている。

肺気や脾気の失調による脾虚生湿で、水湿が増加しているのが苔の状態でもわかる。

外気が寒いと体内にも影響して、さらに宣発失調を起こして、鼻水

や咳を生じる。

### 治療方法 温化寒飲、宣肺健脾

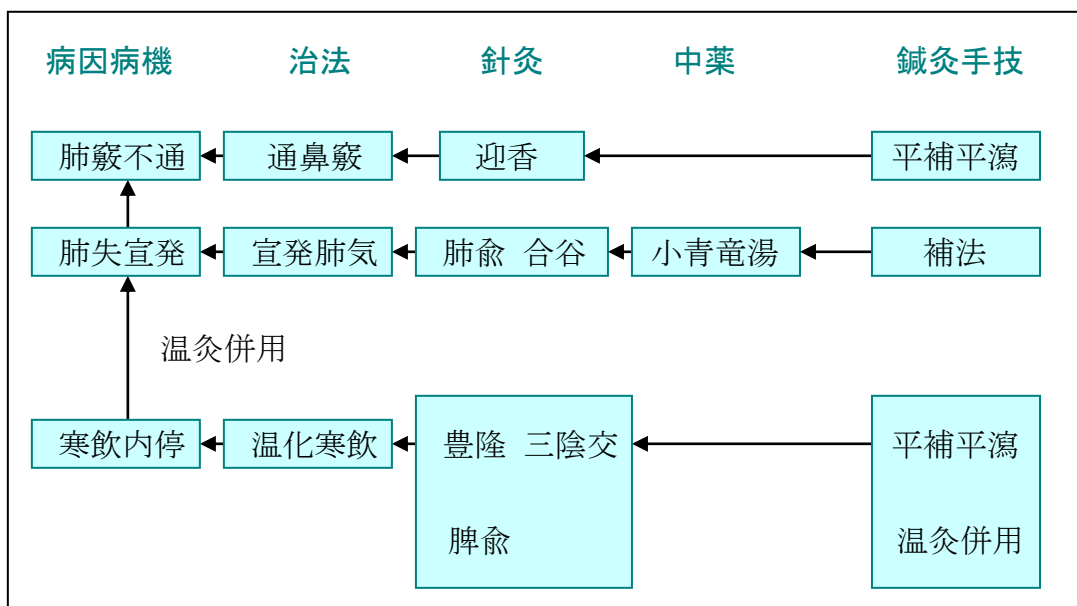
(脾は生痰の源で、肺は貯痰の器である。脾虚によって生じた大量の痰飲が肺にたまっているのを取り除く。体内の痰飲を温肺化飲法で取り除き、体表に侵入した風寒の邪を解表散寒法によって取り除く。)

上記、症状により加減法を用いる。

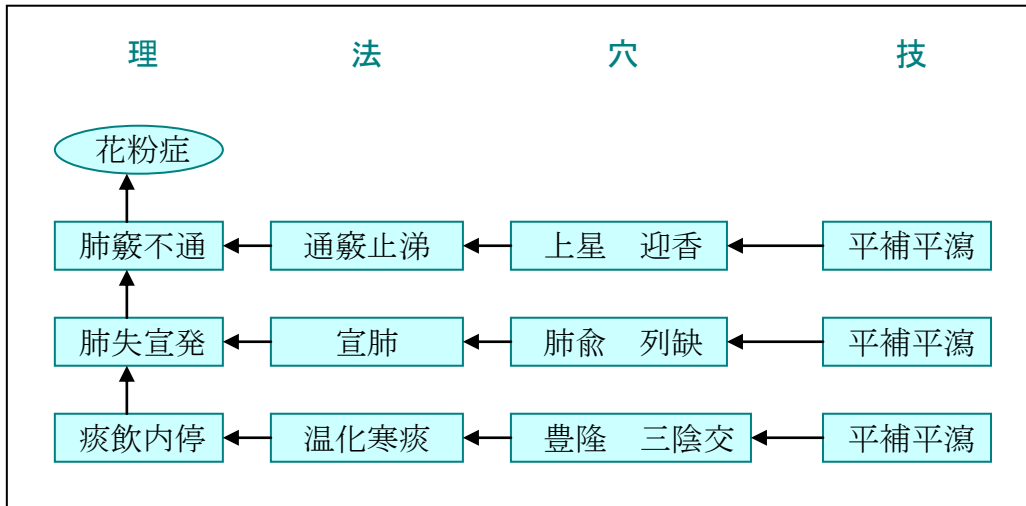
### 針灸・中薬による代表配穴と処方

鍼灸配穴 脾兪 三陰交 肺兪 合谷 迎香 上星

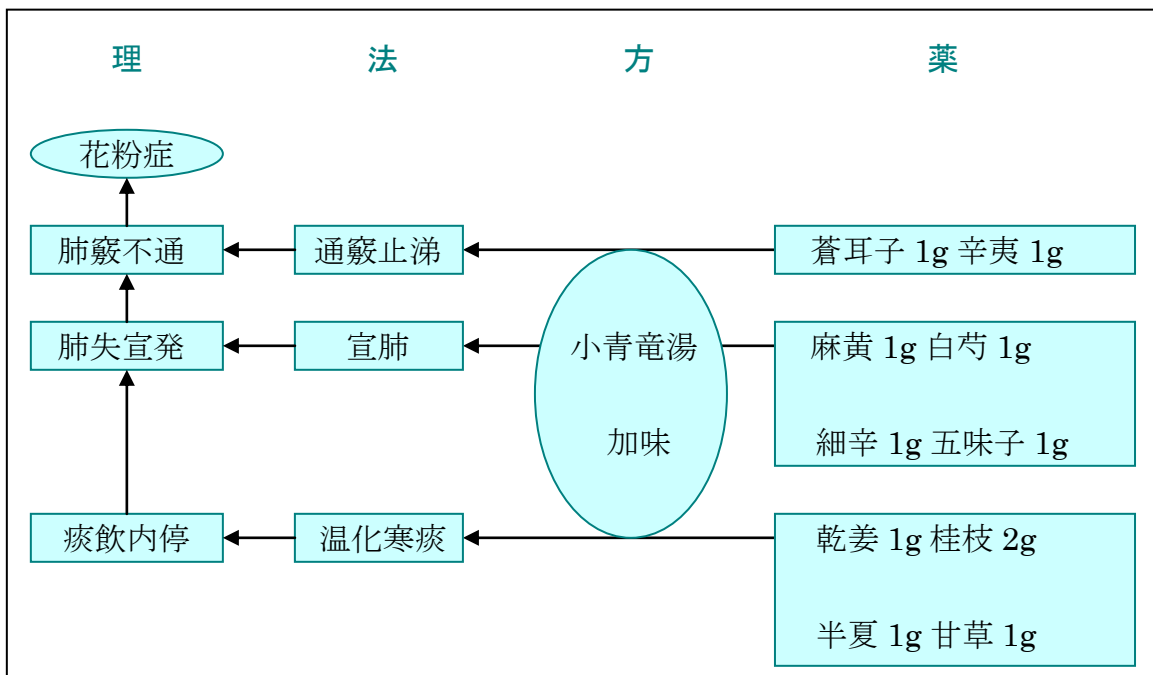
中薬処方 小青竜湯 加 蒼耳子 辛夷



## 鍼灸加減法の配穴



## 中薬加減法の処方



## 症例検討

ここからは実際の症例により検討します。

### 症例（１） 女性 43歳

初診 1999年2月15日

主訴 鼻水

#### 現病歴

20年来の花粉症。

毎年2月から5月初旬にかけて鼻水が水のように溢れ出す。

6月7月は症状少し軽減、8月9月は症状なし。

10月11月は2月から5月初旬と同様の症状。

鼻水は、1時間程でハンカチが濡れてしまって使えなくなるほどで、

花粉飛散期は毎日耳鼻科に通院。1年のうち8ヶ月はこのような状

態が続く。

減感作療法は2年ほど続けているが、効果がないため来院。

#### 症状

イライラ、易怒、大息。

生理前には乳房が張り、生理になると血塊がある。

焦燥感、多夢、寝つきが悪い、口内炎頻発、キーンという耳鳴りがあり、耳が詰まった感じがする。

発汗：少　水分摂取量：少　尿：頻尿・多量

四肢厥冷

**舌診** 暗紅色、舌尖紅

**舌苔** 白薄苔、苔やや多く粘・滑

**脈診** 渋やや弦

**弁証** 肝気鬱結　心腎不交

## 治療方法

**標治**（とりあえず現在の症状を改善させる治療法）：

宣肺止涕

**本治**（症状の発生メカニズムである根本的な原因に対する治療法）：

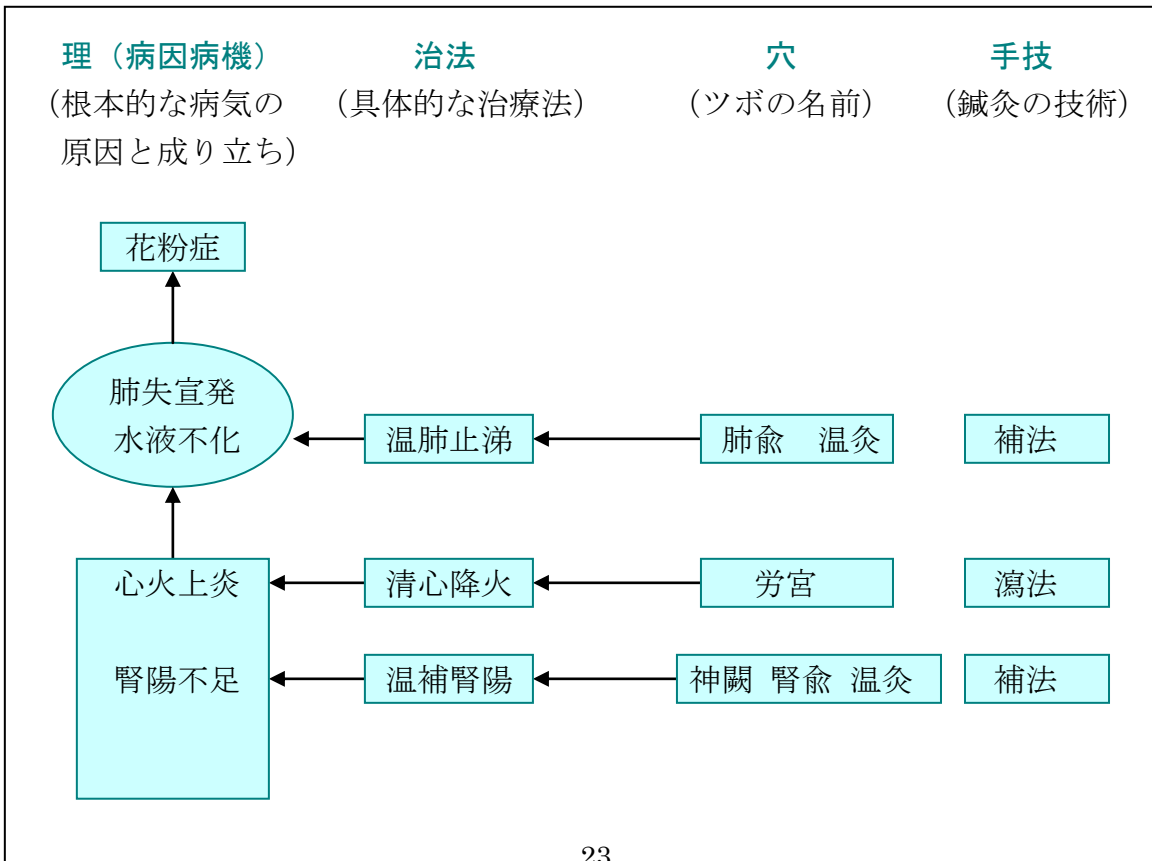
疏肝理気　交通心腎

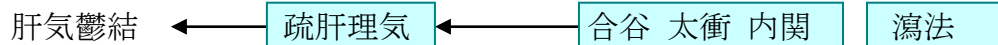
疏肝理気（肝の気を巡らせ、  
抑鬱された気分  
を解消させる）

清心降火（頭脳や思考の  
オーバーヒートを  
和らげる）

温補腎陽（腎の身体〔腎水〕を  
温める機能を補う）

交通心腎（この3つ  
の方法によって、心  
と腎の関係を相互に  
交流させる）





## 治療経過

週3回1ヶ月間で鼻水は50%軽減、耳鼻科に行ったのは1回のみ。

週2~3回で2ヶ月後(20回)、鼻水は90%軽減。3ヶ月後(+5回)

には全ての症状改善。

以後、月2回体質管理のために継続。

1年後、2ヶ月ほど治療が中断。再び鼻水が出、あわてて再来院する

も1回の治療で治癒。

すぐに山や草原のウォーキングに出かけたが全く症状は発生しなかった。

その後現在にいたるまで、症状の発症は見られない。

## 考察

この患者さんの発症の機序は次のようになる。

肝気鬱結 → 肝鬱化火 → 母病及子 → 心火上炎 → 心火が  
 亢逆し下降できずに腎水を温められない → 腎陽不足により水分が  
 蒸騰して気化できない → 心腎不交 → 水液停滞 → 外溢鼻汁  
 → 花粉症



イライラ、易怒、焦燥感、寝つきが悪い、多夢、口内炎などをみると明らかに熱証である。しかし、頻尿で量が多く、手足がなかなか温まらないという症状、また舌診において、薄白苔、滑苔が見られるのは明らかに寒証である。虚実については実証のようであるが、腎陽虚を挟んでいるので虚実挟雑証である。3種類の証候を持ち、虚実寒熱が挟雑しているといえる。

臨床ではこのようなケースがほとんどなので病因病機及び寒熱・虚実をしっかりと捉えることが大切である。

症例（2） 女性 31歳 婦人警官

初診 1998年7月5日

主訴 鼻づまり

### 現病歴

18～22歳まで公害訴訟で有名な地域で交通課勤務、その後22歳の時にオフィス街に転勤。

その年の冬、鼻詰まりが始まり、以来10年間風邪や季節に関係なく1年中鼻が詰まっている。

両鼻が詰まっているため、口を開けないと息ができない。

2軒の耳鼻科でアレルギー性鼻炎と診断された。

アレルゲンは1種類の花粉だが、1年中鼻が詰まっているため原因はそれだけではないと言われた。

半年以上通院したが全く変化がなく、以後内科に転医し、点鼻薬と飲み薬をもらったが、薬は眠くなるので点鼻薬のみを使用。

薬が切れると鼻が詰まるので、1日6回4時間毎に点鼻し、以来10年間点鼻を継続。

## 随伴症状

食欲旺盛、過食、肉や油物が大好き。

おかずに醤油や砂糖を多く使う。

甘いものをよく食べる。

水はほとんど飲まない。

少汗、不渴。

尿は1日4~5回、色：黄。

左肩と右膝の裏に湿疹がよく出来、蚊にかまれたように赤くふくれる。

走ると人より早く息切れする。

立ちっぱなしや運動後は腰がだるくなり、足が張る。

1ヶ月に1度は鼻出血。

頸肩が常に張る。

自責感、大息、イライラ、焦燥感。

寝つきが悪く、多夢。

手足厥冷、のぼせる、顔が常に火照る。

経前乳張、経色紫暗、血塊、月経過少（3~4日）。

大便乾結。

運動後や風呂に入ると改善。

## 増悪要素

ビールを飲んだ後

脈診 72回/分 弦・滑

舌診 紅絳舌 舌尖紅 舌辺齒痕

舌苔 黄膩苔

本一湿熱内停

標一肺氣不宣 肺竅不通

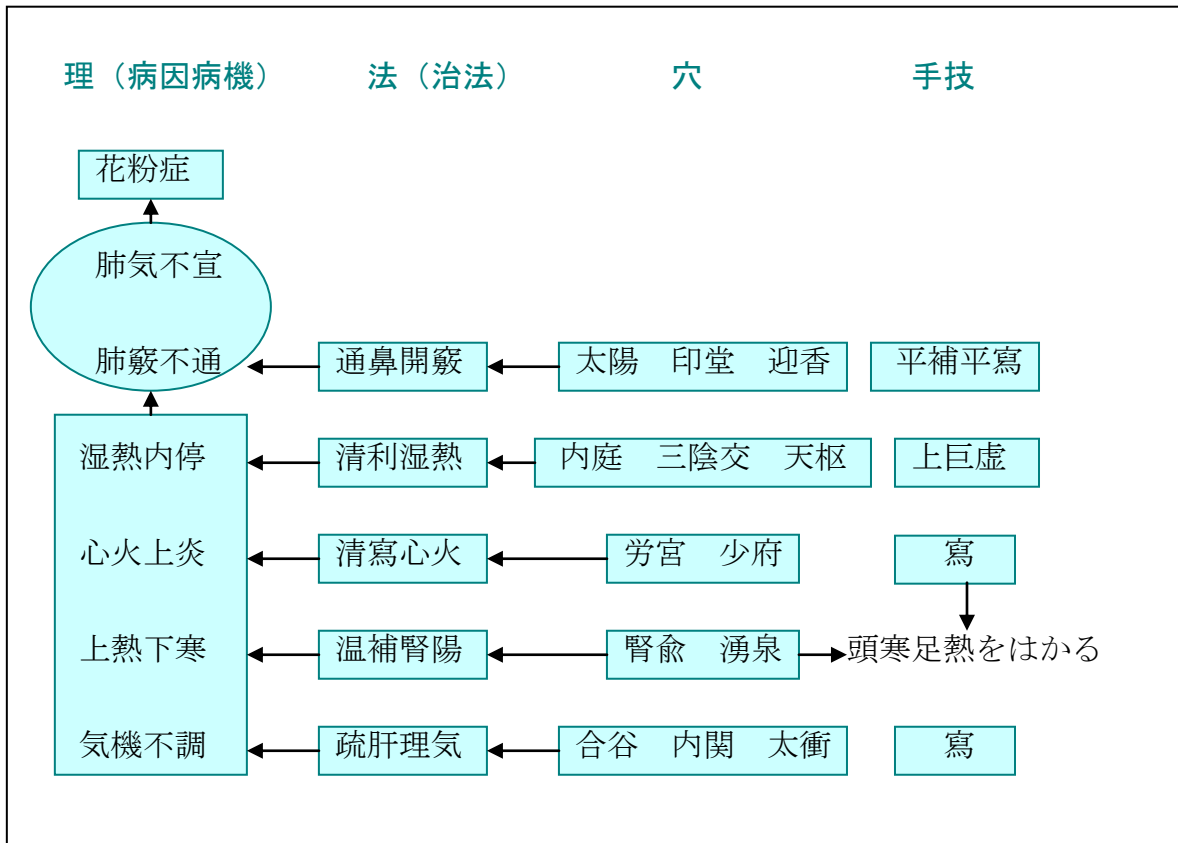
## 治療方法

### 標治

清瀉心火  
温補腎陽  
疏肝理気

} により交通心腎をはかり、宣肺して通竅する

本治 清利湿熱



## 治療経過

4回の治療で11時間、10回で22時間30分、12回で24時間30分、点鼻薬をささずに済むようになった。20回目で118時間30分点鼻薬をささなくても我慢できた。以後、20時間から36時間となり、8月21日点鼻薬を中止。

しかしこの時の改善度は50%前後で、苦しい時は点鼻薬をさすことを促したが、本人の意思でささなかった。以後、節食により体重51kg→49kg。月毎に症状改善され、5ヶ月目で症状の完全な改善にいたった。

## 考察

病程が長く鼻詰まりが激しいが、その根本的な原因は湿で、湿を生じる原因は飲食である。肉や油物が大好きで過食傾向にあり、肥甘厚味に偏っている。このような飲食は脾失運化となり、水湿を生じる。

湿疹は水分が汚れて皮下にたまったもの。

ビールを飲んだ後に鼻が詰まるのは、ビールが湿を加重するため。

運動と風呂によって改善するのは気機の流れがスムーズになるため。

湿は気機を妨げやすく、気機が不調になると、走ると早く息切れし、鼻詰まりを起こす。

気の滞りにより、イライラや焦燥感、よくため息をつくなどの症状が起こる。

湿鬱化火し、火攪心神により寝つきが悪くなり、心火亢盛により血熱が妄行し、鼻出血している。

舌診と脈診は湿熱と心火上炎の状態を表している。

しかしこの症例においては「どうしても治りたい」というご本人の痛切な意思が何より良い結果につながったといえる。

### 症例（3） 男性 55歳

初診 2004年2月21日

主訴 鼻づまり

随伴症状 喘息、首・肩のこり

#### 現病歴

昨年9月より鼻がつまり、段々悪化し一日中口を開けないと息がで  
きないほどになった。

4年前から毎年秋口に鼻がつまり、本年は2月になっても続いて治り  
そうにない状態だった。

病院でアレルギー性鼻炎と診断され、飲み薬と点鼻薬を服用。

年末から正月にかけて喘息。

横になっていると胸がつまり、ヒューヒュー音がする。

胸がつまり苦しいので、それを開こうとして咳が出る。

咳をすると白い痰が出る。

芝刈を行うと喘息が起きやすい。

激しくしゃみが4、5回連続して起こる。

暖房の効いた部屋にいると、足は冷えるのに顔が熱くなり、ボーッ  
とする。

飲み薬は有効だが服用すると頭がボーッとし、服用を止めると元に戻る。

点鼻薬は有効だが、2～3時間で元に戻り、使用回数が増加。

ストレスにより鼻づまりが悪化。

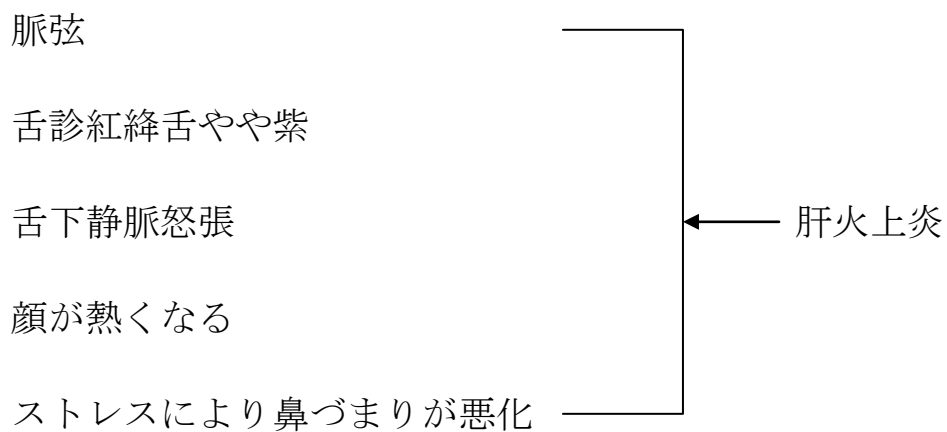
このままでは悪化するだけで改善されない。根本的な改善法を求めて来院。

**脈診** 弦 78回/分

**舌診** 紅絳舌やや紫

**舌苔** 薄白苔、やや滑、舌下静脈怒張

**弁証** 肝火上炎、肝火犯肺

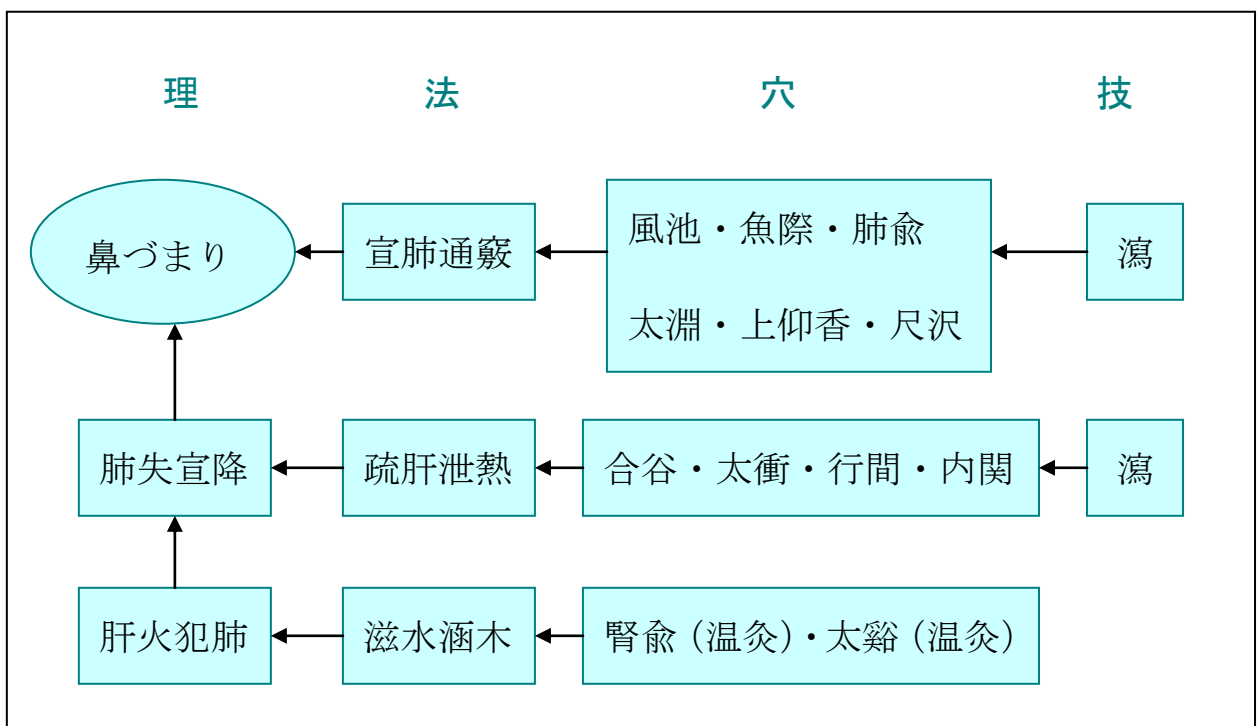




胸がつまるのを開こうとして咳が出る  
 喘息が起こり、横になっていると  
 胸が詰まってきてヒューヒュー音がし、  
 苦しいので咳をすると白い痰が出る

肝火犯肺  
 肺失宣降

治療方法 疏肝泄熱 宣肺通竅



## 経過

治療は週 2 回、初回より症状の軽減を見た。3 ヶ月で鼻づまりはほぼ解消したが、過剰な飲酒後鼻づまりが、そして週末の庭の芝刈り後に喘息発作が起こった（月 1~2 回）。8 月にはそれらの症状も起こらなくなった。本人の希望により 11 月まで継続し、以後月 1 回の体質管理に切り替え、その後症状は全く出ていない。

※2005年7月、内モンゴルで開催された第2回中国全国刺絡学会にて論文を発表しました。この論文より2症例をこれから紹介します。

## 研究目的

アレルギー性鼻炎（アトピー性皮膚炎）に対して針灸治療及び刺絡治療がどのような効果を及ぼすか症例結果より検討する。

## 研究背景

研究の対象はアレルギー性鼻炎 27 症例とアトピー性皮膚炎 1 症例とした。

平成 17 年 1 月より 5 月末まで花粉飛散の最盛期を治療の対象期間とした。

## 実際の経過

28 症例中 24 症例は弁証治療のみで改善し、残る最も重症な 4 症例には弁証治療と刺絡治療を試み、著明な効果が得られた。

刺絡治療を試みた 4 症例のうち、アトピー性皮膚炎 1 症例とアレルギー性鼻炎 1 症例について報告する。

## 症例（4） 女性 33歳

初診 2005年1月15日

主訴 ①アレルギー性鼻炎 ②口腔アレルギー

症状 目および顔面部の痒み、鼻づまり

### 現病歴

16歳の時、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目の痒みが起こり、病院でアレルギー性鼻炎と診断された。

25歳になって、顔面部、特にまぶた、目の下、眉の上が赤く乾燥。一日中痒みが続くようになった。

この頃より主となる症状が鼻水から鼻づまりに変化。

通年性および季節性の全てのアレルギーを持っており、ほとんど一年中鼻がつまり、顔が痒くなり、12・1月を除き、症状が増悪。

16歳の時より、メロン、スイカ、桃、キウイ、胡瓜、皮付きの茄子などを食べると吐き気がして、口や喉が痒くなり、以来現在までそれらを食することができない。

病院では口腔アレルギーと診断。

このような体質を根本的に改善したく来院。

## 随伴症状

仕事中のイライラ、易怒、焦燥感、不安。

いくら寝ても寝足りない感じがして、普通より多く寝ないと身体の疲れがとれない。多夢。

のぼせ、足の冷え・むくみ。

口渇、喜冷飲だが冷飲すると腹痛。

油ものを食べると胃が気持ち悪くなる。

便秘気味で、2日に一度、硬い便が出る。

汗をあまりかかない。

**嗜好** 甘いもの

**舌診** 紅絳舌、舌尖紅

**舌苔** 薄白膩苔

**脈診** 72回毎分、滑

**弁証** 肝鬱気滯 脾虚湿蘊 心火亢盛（心腎不交）

**配穴** 疏肝解鬱——合谷、太衝、行間、内関

健脾化湿——脾俞、陰陵泉、水分

交通心腎——少府、腎俞、太谿

通鼻竅——迎香

## 方解

肝火が胆火及び心火を誘って頭顔面部に上昇し、熱邪と燥邪による皮膚症状が現れている。

肝鬱により肺気が宣散できずに鬱滞して鬱熱となり、肺気が充満して鼻閉となり、さらに気血が瘀滞し、一層頑固な鼻閉を引き起こしている。

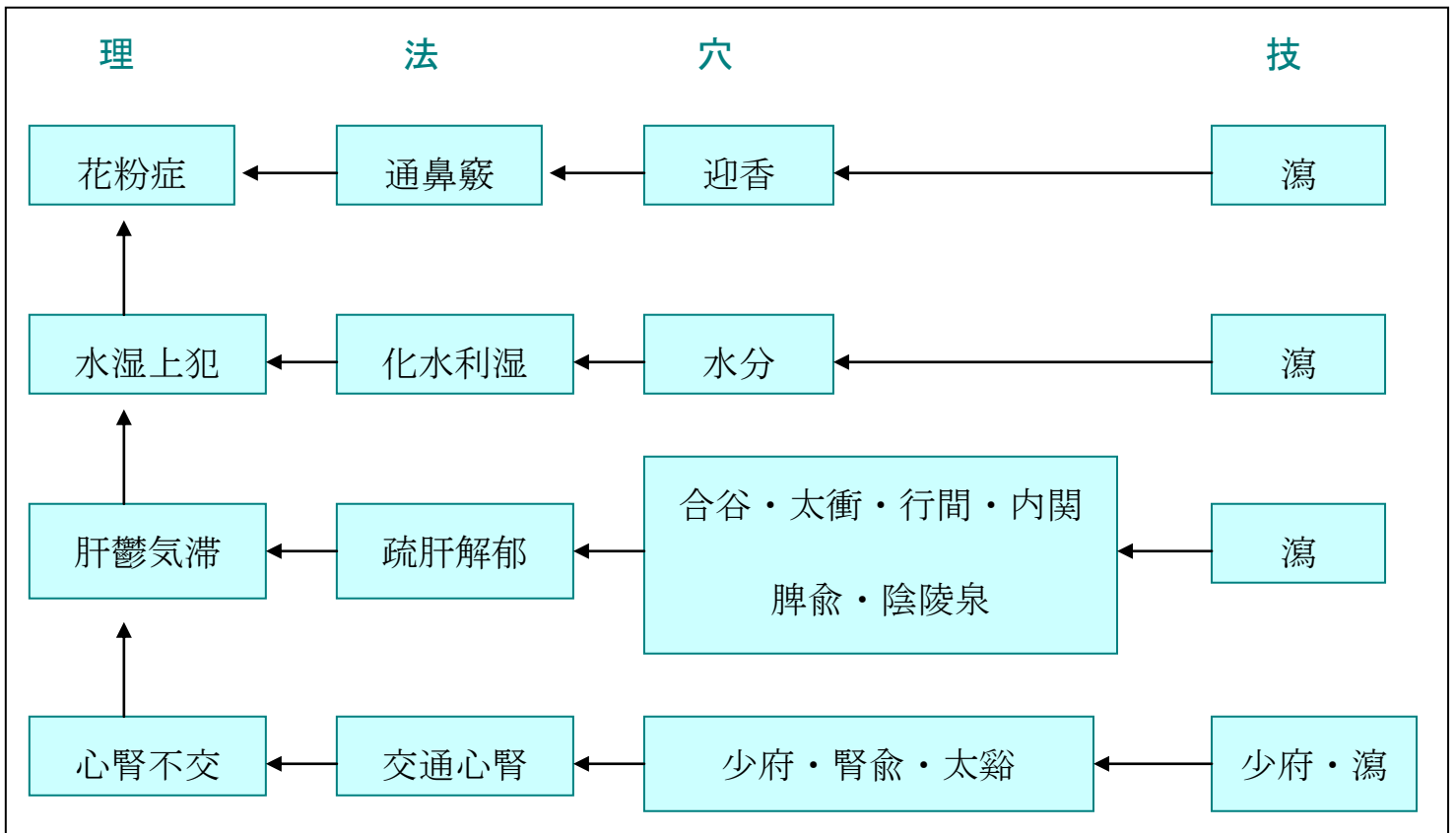
足の冷えやむくみ、のぼせなど上熱下寒の症状を呈しているのは、心火が亢逆して腎陽が不足し、心腎不交となったためである。

舌診では、まるで練乳につかったイチゴの先が少し出ているように舌先が紅点で赤く染まり、それ以外の舌の大部分は真っ白である。

これは、肝鬱気滞の長期化や飲食の偏りによる脾の過剰負担が原因で脾虚失瀝となり、上中下焦に湿が停滞していることを表している。

また、舌尖の紅点は心火を表し、上焦に熱邪があることを示している。

通常より長い睡眠を必要とするのは、脾虚失瀝のためである。



3月7日より4月6日まで刺絡

(週1~2回、以下のツボより3~5穴選穴)

大椎→清熱通陽

大敦→清利膀胱湿熱

関衝→清利三焦湿熱

魚際→清瀉肺熱

商陽→清利陽明湿熱

4月7日以降5月末まで週1~2回、

刺絡は委中のみとする(回数10回)

委中(吸引)→清利湿熱

## 治療の経過

鼻閉、鼻水、くしゃみ完全消失

目の周りの痒みのみ少し残存

## 治療後の症状

以前は蚊にかまれると、10～15cm くらいの内出血ができ、2週間くらい痒く、跡の消失には1ヶ月かかっていた。

現在は3cmほどの内出血で済み、痒みもすぐ消え、跡の消失は一週間になった。

ほとんど毎日ステロイド剤を塗っていたが、現在は薬不使用。

これまで半そでやスカートから出ている手足の部分に出ていたじんましんが出なくなった。

身体が疲れにくくなり、目の痛み解消。

寝つき、寝起きが改善。

起床時、顔に枕の寝跡がつかなくなった。

足のむくみ解消。



## 症例（5）女性 37歳

**主訴** アトピー性皮膚炎

**初診** 2005年1月13日

**随伴症状** 首・肩のこり、腰痛、生理異常、疲れやすい

### 現病歴

29歳の時、突然首筋が赤くなり、あっという間に痒みが肩や顔全体に広がり、特に目と耳の周りが真っ赤になった。

この頃多忙により、イライラ、怒りを感じる事が多く、ストレスがピークに達していた。

病院ではアトピー性皮膚炎と診断。

ステロイド剤を6ヶ月使用したが改善されず、その後漢方薬局にて柴胡清肝湯を併用するも効果得られず。

生理前3~4日ほど帯下（不正出血）、陰部搔痒。

経質粘稠、血塊。

少汗。

**増悪要素** ストレス

仕事が好きでよくこなし、かつ一生懸命やり、全くストレスとは認識していない。

## 現症

皮膚が赤く発熱し、ザラザラと乾燥（首・目・耳の周り、額）

出血（首と耳）

皮膚の黒ずみ（膝の裏、腰、背中、肘）

**舌診** 紅暗舌やや紫、舌尖紅、舌下静脈怒張

**舌苔** 薄白膩苔やや黄、中・下焦に多い

**脈診** 78／分

**脈状** 弦 洪 洪

**気血津液弁証** 気滯、痰湿、瘀血

**寒熱弁証** 実熱

**弁証** 肝胆実火、三焦湿熱

**治療方法** 清肝瀉火、清利三焦湿熱

## 配穴

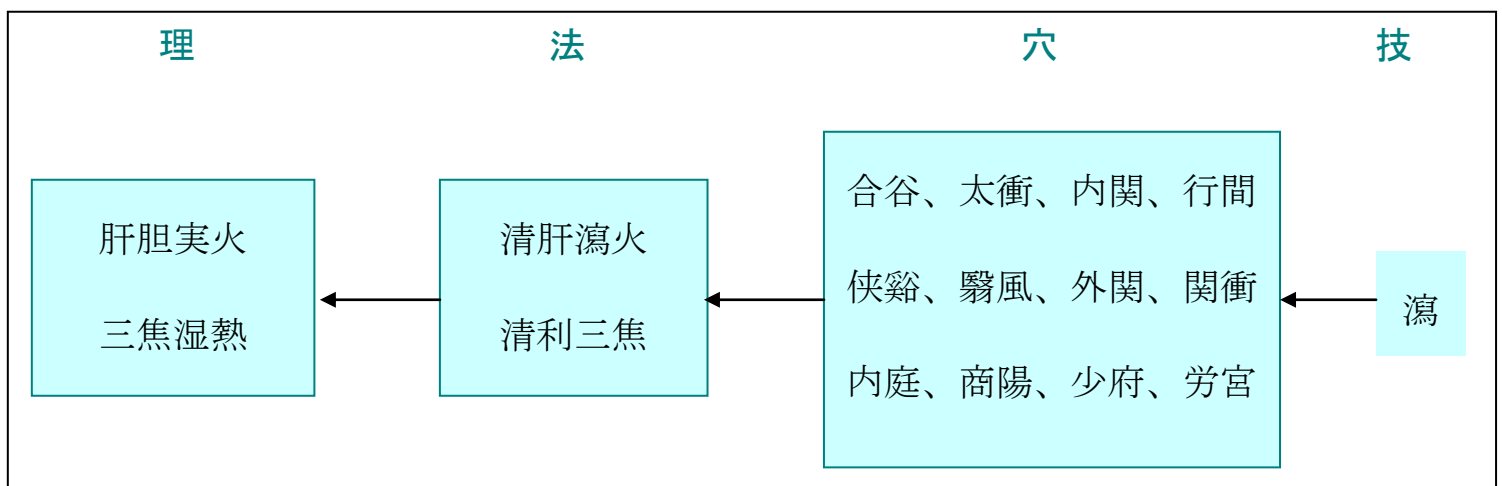
合谷、太衝、内関、行間、俠谿、内庭、商陽、外関、関衝、翳風

## 方解

肝鬱により全身を巡るべき気の流れが鬱滯して内部にこもり、表層の気血の流れが滞り、皮膚が栄養されない。

三焦の気化機能の失調により、肺の通調、腎の蒸化、膀胱の気化機

能に影響し、津液代謝が失調。内部と表層の気や津液の流通が滞り、血瘀となり、皮膚が栄養滋潤されず、腰や背部、膝の裏、肘部が黒ずみ乾燥している。これは長期の血・により血量が不足し、血が煮詰まり、頑固な・滞を引き起こしたためである。肝鬱の長期化により肝火が胆火（胃火・心火）を誘って上炎。頭顔面部や頸部の熱や燥をもたらし、皮膚が赤く炎上乾燥。



3月5日より5月末まで刺絡

(週1~2回、以下のツボより2~3穴選穴)

大敦→清利膀胱湿熱

商陽→清利陽明湿熱

関衝・翳風→清利三焦湿熱

委中（吸引）→清利下焦湿熱

少府・劳宮→清心瀉火

## 治療の経過 週2回、3ヶ月（24回）の治療

顔、首の赤み、痒みが劇的に改善。

腰、背中、膝の裏の黒ずみが改善、きれいな皮膚を取り戻す。

肘部もほぼ改善。

## 患者談

痒みがほとんどなくなったことで、イライラすることも少なくなり、

良い集中ができるので、無理しなくても以前より仕事ができている。

工作中、忙しさの分担、配分ができるようになった。

まぶたが一重から二重になった。

## 考察

皮膚症状は、首の左右外側・前後面、肘関節の内面・背面、背中、

腰部、膝の裏に及ぶ。

手少陽三焦経の井穴・関衝の刺絡によって、肘関節背面の皮膚症状

が、手厥陰心包経、手少陰心経の栄穴、労宮・少府によって、肘関

節内面の皮膚症状が、翳風の刺絡によって、頸部の皮膚症状が劇的

に改善された。

また、委中の刺絡によって膝の裏の皮膚症状及び頭顔面部の痒みが

劇的に改善された。

皮膚症状はそれぞれの経の経絡走行上に現れている。

このようにアトピー性皮膚炎では多経絡に影響が及ぶことが多く、特に皮膚症状についてはそれぞれの経絡の病証の改善を図ることで良い結果を導き出すことが出来る。

そのことは薬局にて柴胡清肝湯を購入し服用したが、全く効果がなかったことからもうなずける。

### アレルギー性疾患における刺絡治療の効果

刺絡治療を施した4症例全てにおいて、主訴及び随伴症状の改善に著明な効果が得られました。特に目や皮膚の痒み、皮膚の乾燥・熱・黒ずみに対して劇的な改善を得ました。刺絡治療は湿邪、風邪、熱邪、瘀血の改善に有効であるといえます。

## 当院の治療実績

### 治療期間

※ 治療は週 2 回をベースとし、症状の重い時期は 3 回、軽くなれば 1 回

① 証候の軽いもの (30%) 5~15 回

1~2 ヶ月で改善

身体も楽で随伴症状も改善

② 証候の重いもの (10%)

1 年間かけて根本的改善

③ 証候の普通のもの (50%)

1 シーズン (3~5 ヶ月) かけて改善

④ 10%は不明 追跡できず

### 私見

近年、アレルギー性鼻炎の根本的な改善を求めている人がだんだん多くなってきました。しかしながら、一般に鍼灸でアレルギー性鼻炎が治ることはまだあまり知られておりません。私の患者さんの多くも当院で初めて鍼灸によってアレルギー性鼻炎が治ると聞いて、

治療を始めるのです。

必要な日数に従って来院していただければ、証候の軽重に関わらず、どの証候もほぼ1年以内に改善できています。しかし、治療回数が足りなかったり、来院ペースを守れなかったりして、症状を翌年に持ち越すケースも30%くらいあります。しかし、その場合も翌年にはほぼ全員症状が軽減し、治療回数も非常に少なくて済んでいます。

治療成績は年々向上しており、根本的な改善を求めている人に自身を持って鍼灸治療をお勧め致します。

## 考察

臨床では、寒熱虚実が挟雑し、2つ3つの証候が重なっているのが普通です。関連する経絡・臓腑が5つ以上に及ぶこともあり、病因病機をしっかりと分析し、証候をたてる必要があります。

湿と燥に見られるように、寒と熱という一見相反するよう見え

る病象が組み合わさっているのも、アレルギー性鼻炎の特徴といえます。それゆえ、もつれた糸を一つ一つほぐすように、しっかり標本を見分け、証候の変化や病態に応じた的確な治療を施すことが大切なのです。

## 結語

アレルギー性鼻炎の根本的な原因は体質であり、アレルゲンは単に誘因に過ぎません。ゆえに針灸治療によってアレルギー体質そのものを改善すれば、どんなに重症な病態でも根本的な改善を図ることができるのです。

針灸治療によってたくさんの方が慢性的症状から開放されることを願ってやみません。

## 参考文献

- 2001年 第3回国際中医学学術交流会議（中国天津にて開催）  
発表論文より
- 2003年 第4回国際中医薬学術交流会議（中国天津にて開催）  
発表論文より



- 2005年 第2回中国全国刺絡学会（内モンゴルにて開催）発表論文より

- 「中医学による花粉症治療」

- 「中医学による頭痛治療」

天津中医学院鍼灸学部長教授 郭 義

原田鍼灸・整骨院院長 原田浩一 共著

源草社刊

- 「中医臨床」通巻68号

花粉症の中医学的とらえ方と治療 仙頭 正四郎